

平成22年3月期 第3四半期決算短信

平成22年2月5日

上場会社名 第一実業株式会社

上場取引所 東

コード番号 8059 URL <http://www.djk.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 矢野 邦宏

問合せ先責任者 (役職名) 経理本部長代理

(氏名) 遠藤 彰信

TEL 03-5214-8560

四半期報告書提出予定日 平成22年2月12日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第3四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第3四半期	51,706	△47.7	△247	—	△217	—	△534	—
21年3月期第3四半期	98,923	—	2,550	—	2,622	—	1,217	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第3四半期	△10.26	—
21年3月期第3四半期	22.45	22.39

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第3四半期	52,864	20,979	39.1	396.41
21年3月期	64,066	21,694	33.4	410.63

(参考) 自己資本 22年3月期第3四半期 20,657百万円 21年3月期 21,393百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	7.50	—	3.50	11.00
22年3月期	—	2.00	—	—	—
22年3月期 (予想)	—	—	—	3.00	5.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	87,000	△31.6	750	△74.1	750	△75.7	150	△89.2	2.88

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無
新規 一社 (社名) 除外 一社 (社名)

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】4.その他をご参照ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年3月期第3四半期 57,432,000株 21年3月期 57,432,000株

② 期末自己株式数 22年3月期第3四半期 5,321,977株 21年3月期 5,332,855株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 22年3月期第3四半期 52,099,701株 21年3月期第3四半期 54,243,638株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料の業績予想は、本資料の発表日現在において想定できる経済情勢、市場動向などを前提として作成したものであり、今後の様々な要因により、予想数値と異なる結果となる可能性があります。

なお、業績予想に関する事項は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】3.連結業績予想に関する定性的情報をご参照ください。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、米国発の金融危機による世界的な景気低迷から一部に底打ちの兆しが見え始めたものの、雇用情勢の悪化やデフレ懸念が強まるなど依然として不透明な状況が続き、企業の設備投資は引き続き低水準で推移いたしました。

このような状況の中で、当社グループは、目標の達成に全力で営業展開をはかってまいりましたが、厳しい景況感を背景に一部の業界を除き顧客企業の設備投資抑制が長期化し、大手石油化学会社向けや大手エンジニアリング会社向けのプラント設備、電子・情報通信関連やプラスチック関連など広範な納入先業種で受注・売上とも低調に推移いたしました。その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、前第3四半期連結累計期間と比べて47,216百万円減の51,706百万円（前年同四半期比47.7%減）となりました。利益面におきましては、営業損益は2,798百万円減少し247百万円の損失を余儀なくされました。また、経常損益は2,839百万円減少し217百万円の損失、四半期純損益は1,751百万円減少し534百万円の損失となりました。

事業の種類別セグメントの業績は、次のとおりであります。

（機械関係事業）

エネルギー開発生産・ガス石油精製・化学関連およびエンジニアリング・建設関連は、前年まで好調であったプラント設備の受注・売上とも大幅に減少しました。半導体実装装置関連は、ITおよびデジタル機器の需要や車載関連機器の需要が激減したため、売上高は国内外ともに大幅に減少しました。また、プラスチック関連では、家電・自動車部品等の需要の激減により、射出成形機および周辺機器の需要が国内外ともに低調でありました。その結果、売上高は45,451百万円減の48,885百万円（前年同四半期比48.2%減）、営業損益は2,749百万円減少し330百万円の損失となりました。

（材料関係事業）

売上高は818百万円減の2,575百万円、営業利益は12百万円増の29百万円となりました。

（その他の事業）

売上高は947百万円減の244百万円、営業利益は61百万円減の54百万円となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ11,202百万円減少しました。これは主に、売上の減少および売上債権の回収により売上債権が減少したことによるものであります。

負債合計は、10,487百万円の減少となりました。これは主に、仕入債務や借入金の減少によるものであります。

純資産合計は、714百万円減少の20,979百万円となりました。これは主に、その他有価証券評価差額金の増加があったものの、四半期純損失534百万円の計上や配当金の支払いを行ったことによるものであります。

（キャッシュ・フローの状況）

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ5,183百万円減少し、7,099百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、売上債権の減少があったものの、税金等調整前四半期純損失240百万円に加えて、前渡金の増加、仕入債務の減少などがあったため、5,593百万円の減少（前年同四半期比14,054百万円減）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有価証券の売却収入があったことなどにより2,009百万円の増加（前年同四半期比3,019百万円増）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の返済や配当金の支払いを行ったことなどにより1,666百万円の減少（前年同四半期比2,597百万円増）となりました。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

当社グループを取り巻く環境は、依然として厳しく先行き不透明な状況となっておりますが、電子・情報通信関連を中心に受注が回復傾向にあり、期の後半には大口案件の売上が予定されていることなどから、平成21年10月30日に公表した通期の連結業績予想に変更はありません。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動はありません。

なお、平成21年6月にアジア地域における営業活動拡大のため、PT. DJK INDONESIAをインドネシアに設立し、連結の範囲に含めております。また、第一実業(広州)貿易有限公司は、重要性が増したため、新たに連結の範囲に含めております。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

① 簡便な会計処理

1) たな卸資産の評価方法

当第3四半期連結会計期間末のたな卸高の算出については、実地たな卸を省略し、前連結会計年度末の実地たな卸高を基礎とした合理的な方法によっております。

2) 固定資産の減価償却の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

3) 一般債権の貸倒見積高の算定方法

一般債権の貸倒見積高については、貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められる場合に、前連結会計年度において算定した貸倒実績率等の合理的な基準を使用して算定する方法によっております。

② 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理

該当事項はありません。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,857	12,337
受取手形及び売掛金	23,657	30,008
有価証券	—	3,000
商品及び製品	3,051	2,175
仕掛品	1,150	1,154
原材料及び貯蔵品	395	403
前渡金	7,203	4,535
繰延税金資産	128	282
その他	2,334	3,090
貸倒引当金	△51	△27
流動資産合計	45,728	56,959
固定資産		
有形固定資産	1,742	1,665
無形固定資産	130	200
投資その他の資産		
投資有価証券	4,392	4,163
その他	1,188	1,336
貸倒引当金	△317	△258
投資その他の資産合計	5,262	5,240
固定資産合計	7,136	7,107
資産合計	52,864	64,066
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	16,964	24,490
短期借入金	3,838	5,105
未払法人税等	6	226
前受金	9,447	10,744
引当金	219	483
その他	578	446
流動負債合計	31,053	41,496
固定負債		
長期借入金	342	455
繰延税金負債	4	2
引当金	474	410
その他	11	7
固定負債合計	832	876
負債合計	31,885	42,372

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,105	5,105
資本剰余金	3,790	3,791
利益剰余金	14,189	14,985
自己株式	△2,224	△2,225
株主資本合計	20,860	21,656
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	122	51
繰延ヘッジ損益	3	△8
為替換算調整勘定	△329	△306
評価・換算差額等合計	△203	△263
新株予約権	20	—
少数株主持分	301	300
純資産合計	20,979	21,694
負債純資産合計	52,864	64,066

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
売上高	98,923	51,706
売上原価	87,396	44,383
売上総利益	11,526	7,322
販売費及び一般管理費	8,975	7,570
営業利益又は営業損失(△)	2,550	△247
営業外収益		
受取利息	66	32
受取配当金	87	81
仕入割引	200	62
その他	36	20
営業外収益合計	391	197
営業外費用		
支払利息	55	24
為替差損	139	38
支払手数料	—	59
その他	125	44
営業外費用合計	320	167
経常利益又は経常損失(△)	2,622	△217
特別利益		
貸倒引当金戻入額	2	—
固定資産売却益	2	5
投資有価証券売却益	4	—
その他	0	—
特別利益合計	9	5
特別損失		
固定資産除却損	—	8
投資有価証券評価損	61	7
その他	13	12
特別損失合計	74	28
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	2,557	△240
法人税、住民税及び事業税	943	18
法人税等調整額	347	274
法人税等合計	1,290	293
少数株主利益	49	0
四半期純利益又は四半期純損失(△)	1,217	△534

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	2,557	△240
減価償却費	173	241
株式報酬費用	—	20
のれん償却額	79	79
貸倒引当金の増減額(△は減少)	21	83
引当金の増減額(△は減少)	△275	△200
受取利息及び受取配当金	△154	△114
支払利息	55	24
投資有価証券評価損益(△は益)	61	7
持分法による投資損益(△は益)	—	19
売上債権の増減額(△は増加)	9,161	6,373
前渡金の増減額(△は増加)	4,258	△2,702
たな卸資産の増減額(△は増加)	2,342	△872
その他の流動資産の増減額(△は増加)	△842	1,318
仕入債務の増減額(△は減少)	△5,457	△7,534
前受金の増減額(△は減少)	△2,178	△1,268
その他の流動負債の増減額(△は減少)	126	131
賃貸資産の取得による支出	△16	△172
その他	551	△109
小計	10,464	△4,916
利息及び配当金の受取額	154	122
利息の支払額	△57	△24
法人税等の支払額	△2,100	△774
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,461	△5,593
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の純増減額(△は増加)	△604	△702
有価証券の売却による収入	—	3,000
有形固定資産の取得による支出	△123	△83
有形固定資産の売却による収入	4	15
無形固定資産の取得による支出	△48	△30
投資有価証券の取得による支出	△207	△178
貸付けによる支出	—	△86
貸付金の回収による収入	—	71
ゴルフ会員権の売却による収入	—	6
その他	△29	△1
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,010	2,009

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△1,311	△1,261
長期借入金の返済による支出	△112	△113
自己株式の取得による支出	△1,810	△4
自己株式の売却による収入	6	4
配当金の支払額	△1,036	△289
その他	—	△3
財務活動によるキャッシュ・フロー	△4,264	△1,666
現金及び現金同等物に係る換算差額	△157	△4
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	3,028	△5,255
現金及び現金同等物の期首残高	7,575	12,282
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	72
現金及び現金同等物の四半期末残高	10,604	7,099

(4) 継続企業の前提に関する注記

当第3四半期連結会計期間（自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日）

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

①事業の種類別セグメント情報

前第3四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日）（単位：百万円）

	機械関係事業	材料関係事業	その他の事業	計	消去 又は全社	連 結
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	94,337	3,393	1,192	98,923	—	98,923
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
営業利益	2,418	16	115	2,550	—	2,550

注1. 事業区分の方法

当社および連結子会社は、国内および海外において各種機械・装置に関連する事業を行っております。事業区分の方法は、商品の種類によって機械関係事業とこれに附帯する材料関係事業およびその他の事業とにセグメンテーションしております。

2. 事業区分の主要商品

- | | |
|------------|------------------------------|
| (1) 機械関係事業 | 各種機械・器具・部品およびこれらの修理・保守・点検 |
| (2) 材料関係事業 | 各種管材・管機材・金属材料・プラスチック原料、化学品 |
| (3) その他の事業 | 各種機器・不動産の賃貸、不動産の仲介、保険代理業、その他 |

当第3四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日）（単位：百万円）

	機械関係事業	材料関係事業	その他の事業	計	消去 又は全社	連 結
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	48,885	2,575	244	51,706	—	51,706
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
営業利益又は営業損失(△)	△330	29	54	△247	—	△247

注1. 事業区分の方法

当社および連結子会社は、国内および海外において各種機械・装置に関連する事業を行っております。事業区分の方法は、商品の種類によって機械関係事業とこれに附帯する材料関係事業およびその他の事業とにセグメンテーションしております。

2. 事業区分の主要商品

- | | |
|------------|------------------------------|
| (1) 機械関係事業 | 各種機械・器具・部品およびこれらの修理・保守・点検 |
| (2) 材料関係事業 | 各種管材・管機材・金属材料・プラスチック原料、化学品 |
| (3) その他の事業 | 各種機器・不動産の賃貸、不動産の仲介、保険代理業、その他 |

②所在地別セグメント情報

前第3四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日）（単位：百万円）

	日 本	ア ジ ア	その他の 地 域	計	消 去 又は全社	連 結
売上高						
(1) 外部顧客に対する 売上高	87,992	6,695	4,236	98,923	—	98,923
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	4,040	1,535	957	6,533	(6,533)	—
計	92,032	8,230	5,193	105,456	(6,533)	98,923
営業利益	2,109	421	18	2,549	1	2,550

注1. 国または地域の区分は、地理的近接度によっております。

2. 本邦以外の区分に属する主な国または地域

- (1) アジア シンガポール、タイ、マレーシア、フィリピン、中国
(2) その他の地域 アメリカ合衆国、ヨーロッパ

当第3四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日）（単位：百万円）

	日 本	ア ジ ア	その他の 地 域	計	消 去 又は全社	連 結
売上高						
(1) 外部顧客に対する 売上高	45,894	4,308	1,503	51,706	—	51,706
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	1,854	1,215	1,026	4,096	(4,096)	—
計	47,749	5,523	2,530	55,803	(4,096)	51,706
営業利益又は営業損失(△)	98	△130	△194	△225	(21)	△247

注1. 国または地域の区分は、地理的近接度によっております。

2. 本邦以外の区分に属する主な国または地域

- (1) アジア シンガポール、タイ、マレーシア、フィリピン、インドネシア、
中国、韓国
(2) その他の地域 アメリカ合衆国、ヨーロッパ

③海外売上高

前第3四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日）（単位：百万円）

	ア ジ ア	ヨーロッパ	ア メ リ カ	その他の地域	計
I 海外売上高	32,629	2,138	3,103	1,311	39,182
II 連結売上高	—	—	—	—	98,923
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	33.0	2.2	3.1	1.3	39.6

注1. 海外売上高は、当社および連結子会社の日本以外の国または地域における売上高であります。

2. 国または地域の区分は、地理的近接度によっております。

3. 各区分に属する主な国または地域

- | | |
|------------|----------------------------|
| (1) アジア | 中国、シンガポール、タイ、韓国、ベトナム、マレーシア |
| (2) ヨーロッパ | スロバキア、ハンガリー、チェコ、ポーランド、イギリス |
| (3) アメリカ | アメリカ合衆国、メキシコ、カナダ |
| (4) その他の地域 | ブラジル、アルジェリア、オーストラリア |

当第3四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日）（単位：百万円）

	ア ジ ア	ヨーロッパ	ア メ リ カ	その他の地域	計
I 海外売上高	11,916	1,232	989	552	14,690
II 連結売上高	—	—	—	—	51,706
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	23.0	2.4	1.9	1.1	28.4

注1. 海外売上高は、当社および連結子会社の日本以外の国または地域における売上高であります。

2. 国または地域の区分は、地理的近接度によっております。

3. 各区分に属する主な国または地域

- | | |
|------------|------------------------------|
| (1) アジア | 中国、韓国、タイ、フィリピン、シンガポール、インドネシア |
| (2) ヨーロッパ | スロバキア、オランダ、ベルギー、ポーランド、イギリス |
| (3) アメリカ | アメリカ合衆国、メキシコ、プエルトリコ |
| (4) その他の地域 | ブラジル、アルジェリア |

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第3四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日）

該当事項はありません。